

《 予防接種を受けられる方へ 》

【予防接種を受ける時の注意】

- ① 通院している方は、接種を受ける前に主治医とよく相談してから受けましょう。
- ② 当日は体調をよく観察し、普段と変わらないかを確認しましょう。
- ③ 予診票は、接種される医師への大切な情報です。 正確に記入しましょう。

※インフルエンザ予防接種と新型コロナ予防接種との接種間隔について、規定はありません。

【予防接種を受けることのできない方】

- ① 明らかな発熱のある方。(37.5℃以上)
- ② 重篤な急性疾患にかかっている方。
- ③ 過去に予防接種の接種液の成分で、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、頻脈、血圧低下等）等重度の過敏症を起こしたことがある方。
- ④ 過去にインフルエンザワクチンの接種後、2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等アレルギー症状がみられた方。
- ⑤ その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方。

【接種後の注意】

- ① 接種後の健康状態の変化に注意するための待機時間は、医療機関によって異なります。
- ② 接種後24時間は、健康状態の変化（腫れ、痛み、発熱、寒気、頭痛、全身のだるさ、嘔吐、吐き気、下痢、関節痛、筋肉痛等）に注意しましょう。体調の変化があった場合は、主治医（接種医）へ相談しましょう。
- ③ 当日の入浴は可能ですが、接種部位を強くこすことは避けましょう。
- ④ 接種当日は、接種部位を清潔に保ち、過激な運動、大量の飲酒は避けましょう。

【予防接種の効果と副反応】 （2026版予防接種ガイドライン、厚生労働省ホームページより）

	インフルエンザ	新型コロナ
予防接種の効果	高齢者では34～55%の発症を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったと報告されています。	新型コロナにかかった場合の入院や死亡等の重症化を予防する効果が認められたと報告されています。
副反応 (免疫がつく以外の反応)	接種部位の赤み、腫れ、痛み、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感が現れることがあります、通常2～3日で消失します。	接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されています。
	まれに重篤な副反応としてアナフィラキシーが現れることがあり、ほとんどは接種後30分以内に生じます。	

【予防接種健康被害救済制度について】

予防接種後はワクチンの免疫をつける反応を起こすことによって副反応が生じる可能性があります。

定期の予防接種による健康被害（医療機関で治療が必要な場合や生活が不自由になった場合）が生じた場合には、法律に基づく救済が受けられます（ただし厚生労働大臣が認定した場合）。

制度についての問合せは、邑南町役場保健課へご相談下さい。*詳細は、厚生労働省ホームページで「予防接種 救済制度」で検索できます。